

## 平成30年度第1回御殿場市地域公共交通協議会議事概要

平成30年6月29日開催 13時30分～14時50分

御殿場市役所本庁5階大会議室

※委員14名出席（全18名）

※会長が必要と認めた者 1名

1 開会（全体進行：御殿場市未来プロジェクト課長）

2 挨拶（井上御殿場市企画部長）

地域の公共交通を取り巻く諸課題は全国的な問題であって、路線バス関係は運転士不足が大きな問題となっており、路線バスの減便、退出がなされている。そのため、当市は「路線バスを地域で育てましょう」ということで路線バスの利用促進運動を微力ながら展開させていただいている。

タクシー関係については、全ての方が利用しやすいタクシーである、ユニバーサルデザインタクシーというものがあるが、導入促進に向けて、補助制度を検討しているところである。

2020東京オリンピックパラリンピックにおいて、公共交通に寄せられる期待は今まで以上に非常に高いものと考えている。それぞれの立場からさまざまな意見を出し合うことが問題解決に近づくと考えている。委員の皆様には、協議会の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきたい。

3 委員紹介（自己紹介）

4 協議事項

(1) 役員の選出について……資料1

仮議長として前会長の御殿場市企画部長が進行を行った。

（説明：事務局）

資料1 第5条第2項により役員は互選により選出する旨説明を行った。

立候補者なしのため、事務局にて下記の役員案を提示した。

会 長（市企画部長 井上 仁士氏）

副会長（市区長会代表 時之栖区長 池谷 文明氏）

監 事（市老人クラブ連合会会長 小澤 一成氏）

異議なしとして、事務局案にて役員を選出した。

（以下、会長により進行）

(2) 平成29年度事業報告・決算報告について……資料2

（説明：事務局）

資料2に基づき、事業報告・決算報告・監査報告（代読）を行った。

いずれも異議なしとして原案どおり承認された。

(3) 平成30年度事業計画(案)・収支予算(案)について……資料3

(説明：事務局)

資料3に基づき、事業計画(案)・収支予算(案)について説明を行った。

(質疑等)

久保田委員：市のHP内に公共交通のページを開設ということだが、これは特設ページのようなかたちなのか。このようなことを聞くのは、市のHPは業務が多岐に渡るので、(目的のページが)見つけにくいというのが、現状なので、何か特別に出せるような工夫をしていただければと思う。行政がHPを作成すると、検索エンジンとしては、信用度で上位に来るので、ぜひやっていただければと思う。

事務局：そもそもこのようなことを始めた経緯としては、昨年度の協議会の中で、バス事業者から他の市町では、時刻表などがホームページ内ですぐに検索できるのだが、御殿場市はそういったことができないという意見を受けて、市としても利用促進を進めていく中でできることからやっということで、路線図や時刻表等を市のHPから見やすいように作ったもの。市HPのトップページに公共交通というタブを作り、そこからすぐに公共交通の時刻表や路線図、市のほうで行っている取組を1ページにまとめたものを出させていただいている状況である。

久保田委員：情報の見える化は非常に大事なことで、なかなかできないことなので、こういったことをやっていただくことは非常にいいのかなと思う。もしできれば、人口が減少していることから外部からの観光客とかそういった方にも使っていただかないとなかなか公共交通の利用が増えていかないので、観光施策と併せて、パンフレットに記載をする等やっていただくことが有効なのかなと思う。

(質疑終了)

いずれも異議なしとして原案どおり承認された。

(4) 平成30年度バス路線退出意向等の申出について……資料①、②

(説明：事務局)

この協議事項については、小山町の自主運行バスの退出申出の関係となるので、小山町(町長戦略課：山口氏)から説明。

(質疑等)

久保田委員：この案件はくわぎルート全体を見直すものなのか。

山口氏(会長が必要があると認めた者)：そのとおり。見直し方は路線を変えず、本数を減らすとか、運行方法の検討やルートの変更等の意見もある。それによって、バス停が変わる可能性がある。

久保田委員：このくわぎルートは、アウトレットという商業施設(観光施設)と組み

合わせることによって路線を維持できるいいモデルになるのではないかと  
思って注目していた。アウトレットの乗車、降車が利用のかなりを占  
めているのではないかと思う。アウトレットに買い物に行くという人も  
いるとは思うが、場合によってはここには高速バスで東京などに行ける  
ハブ的な要素もあると思っていて、実際にそういった方がどういう風に  
使われているかということ調べたうえで見直しをかけていったほうが  
いいと思う。単純にアウトレットを外してしまうと路線維持が果たして  
できるのかと思ってしまう。今まで使っていた方が不便になってしまう  
というのはちょっとどうかなと思う。

山口氏：ご指摘の通りで、アウトレットも主に使われているのだが、東名足柄から足  
柄駅を経由するので、高校生の利用が多い。アウトレットに行く方は多  
いかもしれないが、従業員が多いのではないかと考えている。小山町  
の方では、数年後にRDFセンターの跡地を使って、商業施設を入れると  
いう案もあるので、それを考えるとゼロにすることはしないのではないか  
と思う。ただ、著しく利用の少ない路線ではあるため、バスという、大  
量に定期的に人を運ぶ手段はここでいいのかということは議論が出てき  
ている。

久保田委員：小山町も御殿場市もそうだが、観光施策とうまくリンクさせていけばい  
いかなと思う。少なくともアウトレットに貸切バスでくる外国人だけ  
で60万人と聞いている。それ以外にも個人旅行等で来られている方も  
いるので、そういった方を御殿場市や小山町にいかにつれてくるかとい  
うときに、バス路線がないと連れて来ようがなく、御殿場市はアウトレ  
ットだけで終わってしまうのかなというところで、その辺りも含めて考  
えていくと、観光施策の推進にもつながってくるのではないかと思う。  
御殿場市としては、アウトレット以外のバス停（忍沢）が御殿場市内か  
と思うが、これが無くなってしまうことによる影響について、どう考え  
ているのか教えていただきたい。

事務局：忍沢というのが、東山区、深沢区、鮎沢区に跨っているところであるが、正  
直なところ、そこから足柄方面に行くというよりも御殿場方面へ行くとい  
う考え方を持っている地域住民が多い。まして、アウトレット行くに  
当たってここからバスに乗るということはない。現段階で、庁内の検討  
委員会で検討したなかでは、さほど影響はないだろうという結論が出て  
いる。まだ実態調査をやっているわけではないが、今のところ、近隣の  
状況を分かる範囲で調べた中ではそういう状況である。

山口氏：補足になるが、小山町のデータによると忍沢のバス停の年間利用者数はゼロ  
であった。

久保田委員：利用がないとなると、なぜそこにバス停を作ったのかという話になりかねない。なぜ利用されないかという、バス停が遠い等、そういった原因があるはずなので、そういったところを見直したうえで減便するとか廃止するとかやることをやってからやっていかないとどうなのかという話になる。

福島委員：この場を出して良い問題なのか分からないが、私の勤務する原里小学校の児童は、公共交通機関を利用する児童がいて、今まで下校時間帯にあった路線バスが3月にダイヤ改正がされて、子どもたちが乗る時刻が無くなってしまったことがあり、子どもが1時間くらい待たなければいけなくなってしまう。10月のダイヤ改正で戻してほしいという話をしているところだが、子どもたちが使っている通学の関係で利用するという連携を大事にしていかなければいけないというところで、その辺りを市のほうでも（事業者）にお願いしてもらい、子どもたちの利用を考えてルートや時間設定の計画をお願いしたい。これは、保護者会からの要望が出ていることで、富士急行さんとやりとりしたところでは、承諾を得ているという話であったが、決まった後の話であったと聞いているので、その辺り（利用者である）子どもを主に考えていただけるとありがたい。

事務局：今おっしゃられたのは神場南循環のことだと思うが、そういうような話が（地元から）あったので、富士急行さんへ取り次ぎをしたりしたので、なるべく子どもたちに迷惑のかからないように若干の時間変更に留めるなど富士急行さんも考えながらやっていただいているので、そういった必要性、実態について、本協議会へどんどん教えていただいて、それを元にみなさんの意見を伺いながら、事業者と調整しながら路線の維持を図っていきたくて考えていきたくて、今後ともよろしくお願ひしたい。

久保田委員：ニーズに合った運行をしないと、乗務員不足で増やせない部分あるので、やはりニーズがどこにあるのかそれをどうしていくかということが課題となってくるので、ぜひアンテナを高くして、情報収集に努めていただきたい。

（質疑終了）

本件については、小山町の地域公共交通会議のほうで今後路線の廃止等計画を詰めていくということで、生徒への影響やスマートインターチェンジができることによる、地域住民への影響等を考慮して小山町に協議していただき、また具体的な計画が決まった段階で、再度協議していただくということになった。

#### （5）公共交通利用促進運動の状況について……資料4

（説明：事務局）

（質疑等）

鷺坂氏（大倉委員代理）：別紙のチラシで利用促進を行ったということだが、その際に地域公共交通マップを一緒に配布するという事は費用的に難しいか。なかなか見やすいマップなので、こういったものを使えば実際に利用しやすくなると思うのだが、いかがか。

事務局：地域公共交通マップの作成部数としては、1万部ということで、市内には35,000世帯ほどあるので、予算の都合上、今回作成したものは、各バス路線沿線の施設を中心に配布をした。市民の方の今後の要望等を受けて利用促進という意味で考えていきたい。

鷺坂氏：他市町だと、転入者への案内と一緒に配ったりしているので、その辺りもご検討いただきたい。

バスの乗り方教室は、ターゲットは小学生として行っているかと思うが、国の会議等で話を聞く中では、バスの乗り方教室は大事だが、そこから機運を高めて、公共交通を使おうと考え方を転換させていくことが本来の目的であると言われているので、そういったことができるかというのかなと思った。

今回は小学生が対象であったが、他の地域では高齢の方々でもバスの乗り方を知らないという方もおられるという話も聞くので、利用促進について、高齢者支援ネットワーク会議等でバス利用のお願いをしていくときに高齢者のなかにバスの利用の仕方が分からないという声があれば、来年度以降、小学生だけでなく、高齢の方を対象とした、バスの乗り方教室を行っていくというのも一つ案なのではないかと思う。

会長：公共交通マップは、御殿場市においては、路線が広範囲にわたっていることからより見やすく、より分かりやすく、より安価ですぐに改善できるよう、変更できるように考えていきたい。乗り方教室は、決して子どもだけをターゲットとしているわけではないが、どちらかという子どもを連れた親が大きなターゲットとなってくるのだが、さらに高齢者の方等を含めて展開できればと思う。

久保田委員：地域で公共交通を育てるということは、素晴らしい取組で、どの地域でもなかなかここまでやっているところはないので、素晴らしいと思う。市民への啓蒙は大事だが、市職員として、公共交通を利用して出張するとか、今日のような会議をやる際には、公共交通機関を利用して来もらえるような時間設定をし、利用してもらうために開催案内に路線バスの時間を載せるなど、工夫をすると非常にいいのかなと思う。

事務局：おっしゃるとおりで、なんとかそういうようなかたちにしていきたいと思う。一つの例として、区長会で話をしたときに懇親会等が御殿場駅周辺で行われることが多く、家族に送ってもらうのが当たり前となっているので、

懇親会の時間を調整して、路線バスをぜひ使っていただきたいとお願いをさせていただいた。私自身も御殿場駅に向かう際に、バスを利用させていただいた。久しぶりに乗ってみると、こんな景色が見られるのか、こんなにゆったり乗れるのかと、そんなことを考えながら15分程度の旅を楽しんだ。職員にも自主的に路線バスに乗ることができるように、同僚等から呼びかけをして公共交通の利用を促進していきたいと考えている。また、先ほど小学生のバス利用の関係の話が出たが、小学生が遠足等で貸切バスを利用する際には1台で10万円ほどかかると聞いている。三島に行くのであれば、三島行のバスを利用してくださいとお願いしている。そうすれば、安く済むので、そういう部分をご理解いただき、利用を検討していただきたいと伝えた。このようなことで、少しずつ前に進んでいるところである。

会長：事業者側としてはどうか。

渡辺委員：昨年秋に退出の申出をさせていただき、それ以降、市といろいろお話しさせていただいた中で、良い関係を築けていると実感している。バスの乗り方教室は、以前から事業者としてやっていたことではあるが、今回市のほうで助けていただいているということで、そこをコラボした中で、いろいろな年代の方へ（バスの乗り方教室を）やっていけたらと思っている。

（質疑終了）

本件については、市として引き続き公共交通の利用促進運動を展開していこうと考えているので、委員の方々に、この運動の趣旨をご理解いただき、路線バス利用についてお願いした。

（6）ユニバーサルデザインタクシー導入促進補助案について……資料5

（説明：事務局）

（質疑等）

久保田委員：補助案のユニバーサルデザインタクシーとはということで、高齢者、車いす使用者等書いてあるが、コンセプトはみんなが使えるタクシーということで、障害者や体の不自由な方向けのタクシーということではないので、そこは誤解のないようお願いしたい。観光というところも見据えて（大きい外国人も乗りやすいというところ等）開発されたものと聞いている。余談だが、JPN TAXIが製造されているのは、裾野市ということで、既に静岡市、浜松市、掛川市というところで同様の補助を出している。国としても補助を出すのが、静岡県も協調補助ということで出しているのだから、静岡県は非常に恵まれている。他県と比べてみると、県や市が補助しないと国が補助できない制度となっている

ので、市としても出していただけるとありがたい。

会長：この件について、タクシー協会としてはどうか。

渡邊氏（高村委員代理）：今現在市内では、JPN TAXIを富士急静岡タクシーが2台導入している。やはり一般のお客様が乗ることができるし、障害のある方も乗ることができる。ただ、それに当たっては、静岡県タクシー協会のほうで講習を年1回行われている。その講習を受けないとUDタクシーには乗務できないことになっている。今後、JPN TAXIの導入に当たって、いろいろなハードルがある。助成をいただけるのは非常にありがたいことだと思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

久保田委員：UDタクシーというのは、一般に走行しているタクシーと一緒に手を挙げて停めていいタクシーであるので、ご理解いただきたい。よく、介護タクシーと勘違いして、手を挙げて停めてくれる人がすごく少ないと聞いており、これはUDタクシーが始まった時からの課題となっており、なかなか停めてもらえないということがある。いずれどこかでJPN TAXIを見かけた際には手を挙げて停めていただいて問題ないので、よろしくお願ひしたい。

会長：JPN TAXIについては、見慣れてきているかと思うので、UDタクシーであっても通常のタクシーとして利用していただきたい。

事務局に確認だが、これはいつから制度化する予定か。

事務局：今回、補助案を作らせていただいて、今後庁内の会議等にかかる予定。次年度から導入補助を行っていく予定。

（質疑終了）

補助案のとおり承認された。

## 5 その他

### （1）御殿場市高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業平成29年度実施結果について……資料6

平成29年2月から開始した、高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業について、助成券の発行状況、利用状況等について説明した。（事務局）

（質疑等）

鷺坂氏：これは平成29年以前から行われているものか。

事務局：平成29年から始まったものである。

鷺坂氏：この制度は、何歳以上の方が対象であるとか免許返納された方が対象なのかといった条件はどうなっているか。

事務局：対象者の要件については、70歳以上の方で、ご家族で送迎できる方がいない世帯。普段車があっても、日中通勤等でいない世帯も対象となる。

山口氏：イメージとしては、郊外の方がタクシーを利用されると思っていたのだが、このデータを見ると、街中の方が利用しているようだが、その理由は何かあるのか。

事務局：半分想像となるのだが、郊外の方はそもそも公共交通になじみがないということ。自力で出かけることを想定して車を所有している又は送迎する方がいるのではないかと思う。70歳以上の方で免許を返納される方が少ない。80歳近くまで免許を持っているということがある。逆に街中はその辺りの利便性が高いので、車が置くスペースが少ないこともあって、車を手放し、免許を返納し、公共交通にシフトしていくという流れがあるのではないかと思う。

会長：補足させてもらうが、当市においては、免許返納された方に対する別の支援制度があるのだが、その中で、返納される方は代替手段を既に用意してあることが多い。よって、タクシー及びバスの利用助成に（免許返納は）直結してこない部分がある。郊外の方は2世代、3世代同居しているということが考えられる。その中でも交通弱者は確実にいるので、そういった方々が利用されていると推測される。

(御殿場市高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業の申請書と案内を配布した)  
(質疑終了)

## 6 閉会